



令和6年4月17日

研修だより 6号

笠小ルーブリックについて②

小笠原康晃

「資質・能力」の育成のために、長い期間で見た学習計画を立て、「ルーブリック」を提示します。このルーブリックは子どもたちに事前に提示されます。

事前に提示されることで、客観的な評価がされるようになり、子どもたちも目標をもって学習に取り組むことができます。

現行の学習指導要領で目指している授業は、このような授業を目指しています。

令和2年度から実施された現行の学習指導要領。

その実施に合わせ、笠原小では少しずつ要素を取り入れていきました。

例えば、以前実施していた「単元プランシート」です。

ただの単元計画とは異なり、単元を見通して身に付けさせたい「資質・能力」を明確にしたものです。

例えば、「笠小ルーブリック」です。

評価規準である「ルーブリック」をいきなり導入するのではなく、「達成目標」として、1時間の授業の中で目指すゴールの姿を明確にしました。

現行の学習指導要領が目指す授業に近付くための授業研究を、笠原小はずっと続けてきました。

研究を進めていく中で、コロナ禍への対応等様々なことに追われ、徐々に移行することが難しくなりました。

結果として、「笠小ルーブリック」という、とても印象的で強い言葉が残りました。

笠小ルーブリックの共通理解が進まないまま、現在の状態を迎えています。

本年度の授業研究では、「しかけ」を追究するとともに、「笠小ルーブリック」の共通理解を図っていきたいと思っています。